

景観重要樹木候補樹木診断業務委託 報告書（クスノキ）

I. 業務概要

1. 診断樹木 神明社のクスノキ
2. 診断場所 愛知県みよし市西一色町^ベ林 19-1
3. 診断日 令和7年11月26日
4. 調査者名 一般社団法人 愛知県樹木診断協会
西垣直人（登録No.1926）
中山和彦（登録No.1555）
鈴木奈穂子（登録No.3226）

5. 診断内容

1) 樹木概況調査（外観診断）

- ①樹木概況
- ②地上部衰退度判定
- ③樹形写真（樹形評価）
- ④被害・病徴部位等写真
- ⑤倒木、枝折れ等危険度判定
- ⑥各種被害調査（病害虫・腐朽）

2) 土壌・根系調査

- ①土壌硬度試験
- ②簡易現場透水試験
- ③簡易土壌断面調査

6. 本報告書内容

神明社のクスノキについて、「景観重要樹木」に指定するにあたって、各種の知見を得るための調査である。今後、永続的に当該樹木を保全していくための基礎的データを取得し、保全対策に反映する。

本報告書では、以下の調査取得データを添付する。

- ①概況調査票
- ②現況平面図
- ③地上部の衰退度判定票
- ④樹形写真
- ⑤被害・病徴部位等の細部写真

- ⑥倒木、枝折れ等危険度判定票
- ⑦各種被害調査（病虫害・腐朽）
- ⑧総合診断
- ⑨今後の保全対策概要
- ⑩長谷川式土壌貫入計試験 結果（6 地点）
- ⑪長谷川式簡易現場透水試験 結果（4 地点）
- ⑫簡易土壌断面調査 結果（1 地点）

II. 現地調査結果

1. 樹木概況調査

①樹木概況

本殿の背景として小面積の社叢林が形成されており、その構成要素のひとつとして、このクスノキが生育している。周囲にはスギ、ヒノキのほか、アラカシやツクバネガシ、他のクスノキやイチョウなどの高木が近接して生育しており、大きく競合している。そのなかで、対象となるこのクスノキが、大きく枝葉を広げて優勢木として存在感を示している。

②地上部衰退度判定

目立った衰退は認められない。樹体中下部に枯れ枝が見られるが、樹勢の低下ではなく、クスノキの性質による生理的なものや剪定による影響である。評価判定は5段階で行ったが、ほぼすべての評価が「良」から一段階だけ下がる「やや不良」となった。腐朽、空洞などに関する深刻な損傷はほとんどなく、衰退度の区分としても「良」に近い。

③樹形写真（樹形評価）

四方に枝葉を広げているが、西側はアラカシの高木と近接し、枝葉の伸長が抑制されている。また、樹冠下には針葉樹を中心に他樹が乱立し、対象となるクスノキの樹冠を突出しているものも見られる。

④被害・病徴部位等写真

一部の葉にクスベニヒラタカスミカメによる吸汁被害が見られる。被害規模が小さく、現状では問題ない。また、この虫害による樹木の枯死の記録はほぼ皆無とされている。10～20年前と思われる剪定痕が、南側の太枝を中心に見られる。寸胴切りされた様子で、そこから枯れているものもあり、景観面への影響も大きく、避けるべく剪定手法ある。被害、病徴ではないが、周辺樹との競合は今後の生育も含めて、大きな問題となると予測される。

⑤倒木、枝折れ等危険度判定

樹体中下部に、直径5～10 cm程度の枯れ枝が複数見られる。前述の通り、生理的または剪定による枯損で、樹勢に影響するものではないが、参拝者への落枝の可能性がある。社殿の裏側で、人の往来が少ない場所ではあるが、危険除去の対策は必要である。

⑥各種被害調査（病虫害・腐朽）

クスベニヒラタカスミカメの吸汁被害、剪定痕からの腐朽、若干梢端の葉の小型化が見られるが、いずれも軽微で問題視するほどの状況ではない。

2. 土壌・根系調査

各調査、試験位置を以下の図1. 各土壌調査、試験位置に示す。
各調査結果は以下の通りである。

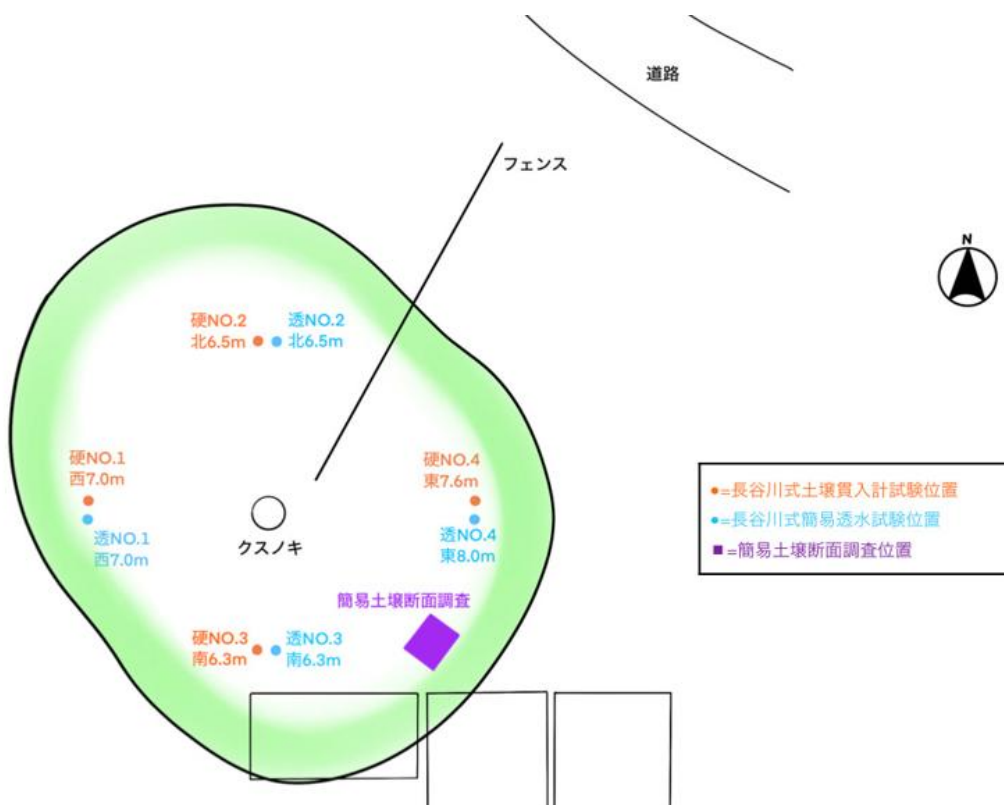


図1. 各土壌調査、試験位置

①土壌硬度試験（長谷川式土壌貫入計を使用）

クスノキが大きく枝葉を広げていることから、周辺の生育基盤の広範囲を利用して
いると考えられる。また、各方位で土壌の状況に変化が多いと想定されたため、樹芯
から東西南北に6～8m離れたところを試験位置として設定した。

その結果、どの方位も根の伸長に影響があるほど固結していると判明した。北6.5m
の地点のみ、表層20cm程度が軟らかかったが、それ以外の試験位置はほぼ表層に近
い部分から固結が続いていた。クスノキは硬い土壌にも比較的耐えうる樹種である
が、周囲広範囲の固結は根の伸長発達を制限し、中長期的に衰退がはじまる可能性も
ある。（※長谷川式土壌貫入計試験結果 参照）

※長谷川式土壌貫入計とは・・・

2kgの落錘を50cm落下させ、そのエネルギーで先端の円錐コーンを土
中に貫入させ、その時の貫入抵抗から相対的な硬さを知るものである。

円錐コーン落下の深さの値を専用のグラフに入力することで、土壌の
深さと硬さの相関関係を簡便に知ることが可能となる。

②簡易現場透水試験（長谷川式簡易現場透水試験器を使用）

硬度試験と同様の4地点の設定で透水試験を行った。土壌硬度試験結果内で述べた
通り、いずれの地点も固結しており、試験孔の掘削がやや困難な状況であった。試験
結果は西、北で「可」、南、東で「やや不良」と判定された。北側、東側は山砂客土
の人工地盤であったが、掘削孔底部まで固結しており、特に東側で透水性に問題があ
る結果となった。西側、南側の掘削孔底部は盛土されていない地土の可能性があり、
そこも同様に固結しており、特に南側で透水性の問題が指摘された。

硬度試験と同様に、透水試験も判定結果には問題があり、やはり中長期的には衰退
がはじまる可能性があり、土壌改良等を視野に入れる必要がある。（※長谷川式簡易
現場透水試験結果 参照）

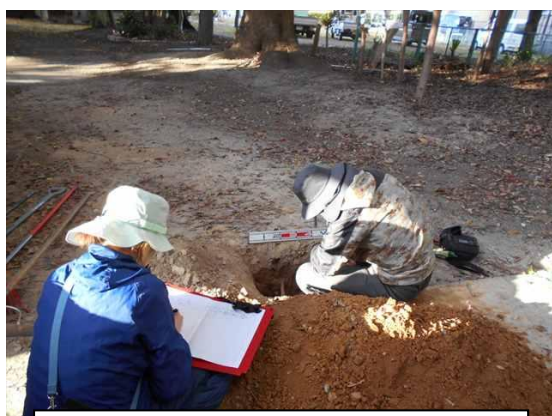
※長谷川式簡易現場透水試験とは・・・

現場で透水性を測定できる試験器で、直径15cm程度の試験孔を掘削
後、底部に注水し、設置したスケールの目盛りを読み取ることで透水の
程度を測るものである。土壌中に水が浸透する能力を最終減水能として
算出することで、透水性の数値的判定を可能とする。

③簡易土壌断面調査

掘削地点は南南東 7.6m で、層位は概ね二層に分かれていた。表層約 10 cm は固結しているが、山砂客土層と思われ、本殿周囲の造成にともなう敷き均し搬入土の可能性はある。その下層は赤土層が続き、この層は元土と想定されるが、掘削が困難なほど著しく固結していた。しかし、この層の深さ 25～50 cm に直径 5～50 mm の根が複数出現した。樹芯から離れた場所であるにも関わらず、根の出現が比較的多く、確認した根はすべて健全で樹芯に対して放射状に伸長していた。

掘削範囲内はすべて著しく固結していたにもかかわらず、根の発達が見られたことから、クスノキの根圧の強さを感じさせる。それでも長期的な生育のことを考えると、土壌の膨軟化など生育基盤の対策を視野に入れたほうがよい。(※簡易土壌断面調査結果 参照)



断面記録状況



掘削断面

3. 今後の保全対策概要

調査結果から必要と判断した各対策を以下に示す。

①土壌改良と発根促進（※処置不要）

現在の生育状況からは必要ないとする。ただし記述の通り、土壌の固結による通気性や透水性の問題は、長期的な生育に影響を与える可能性がある。ゆえに、樹勢等の観察を続け、必要に応じて土壌改良の検討を進めていけるとよい。

②剪定

各所、枯れ枝剪定は必要である。参拝者が近づきにくい場所ではあるが、落枝事故の可能性を無視できないため、早めの対処が望ましい。

③周辺環境の整備

南西側に打設されたコンクリートは、少なからず根の生育に影響があるため、可能であれば撤去したほうがよい。

④その他

周囲の競合木は生育上の問題となるだけでなく、美観面や衛生面への影響も大きい
ため、可能な限り撤去が望ましい。特に樹冠下にある高木類は、光合成阻害だけで
なく、枝葉の接触による物理的損傷、根系競合、視認性の悪化など、様々な影響を及ぼ
すため、優先的に撤去を進めていけるとよい。

以下の図2. 競合木の位置関係に、対象となるクスノキの周辺の競合木の位置を示
した。このなかで、大きく樹冠競合しているものは図内に葉張りも記した。

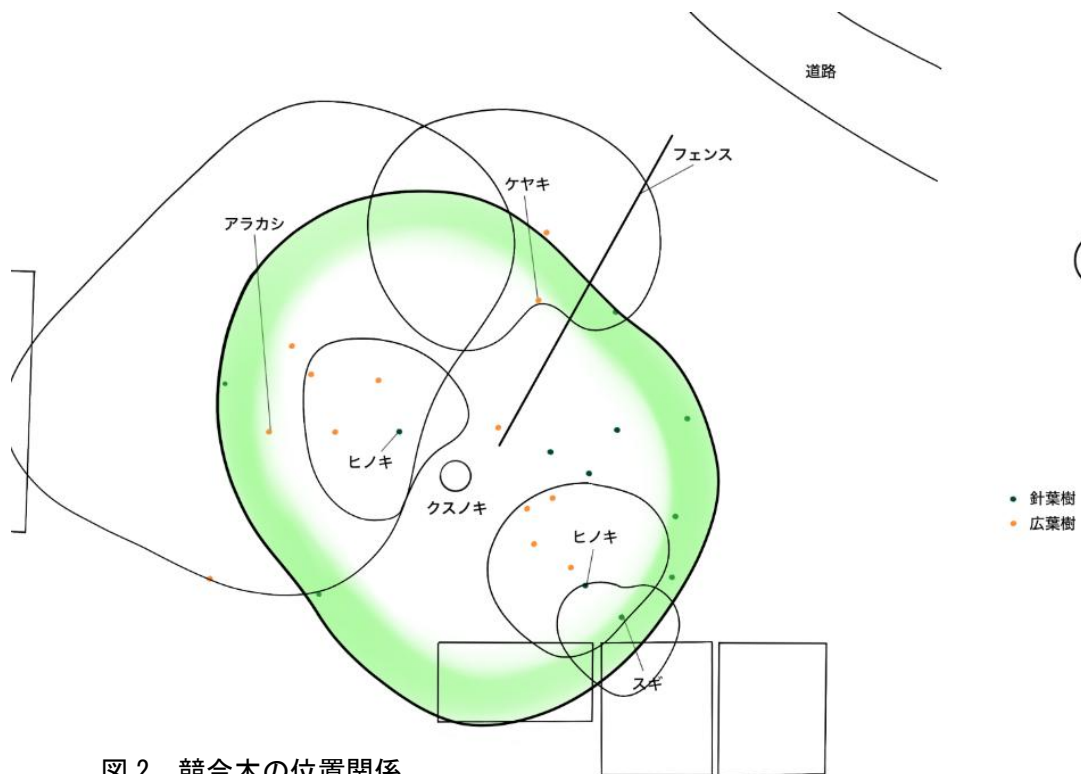


図2. 競合木の位置関係

⑤保全計画

【緊急項目】

枯れ枝の切除による落枝事故防止。

【中・長期項目】

樹冠下の競合木から順に撤去を進めていき、数年かけてこのクスノキの周囲の高木
を除去していけるとよい。

これらの対策を講ずるには、専門的知識、技能を有する技術者の助言、指導が重要である。また、樹木の状態は常に変化するため、適宜手法を検討する必要がある。したがって、長期にわたって専門技術者の指導を受けることが重要である。

4. 景観重要木指定にあたっての考察と他のクスノキとの比較検討

①景観重要木指定に関する評価考察

このクスノキの最大の威厳は、神社本殿を守り包むようにその背景に位置していることである。社叢林のあり方として、地域の信仰の対象となるだけでなく、多様な生物の保全、歴史的・文化的な価値の存続が重要視される。この神明社の社叢林のなかで、該当樹はその存在感や景観的な価値、地域と一体となる歴史や文化面において非常に大きな役割がある。また、幹と枝がくっつきあって一体化する「連理木」となりつつあり、窓のような穴が見られる。連理木は縁結びや夫婦円満などの象徴とされ、縁起木として扱われることが多い。このようなことから、地域の重要な信仰対象として永続的に守り伝えていくべき個体だと考えられる。

②近隣地域でのクスノキの巨木との比較検討

以下の表に、周辺地域でのクスノキの巨木を列挙した。クスノキの巨木は西日本、特に九州地方には樹齢1000年を超える個体が数多く存在している。本報告書内では、県内で代表的な個体を5つ挙げた。個体情報が現地での測量時期とずれていることもあるが、概ね以下のデータとなる。

周辺地域でのクスノキの巨木	地域	樹齢	樹高	幹周
清田の大クス	蒲郡市	1000年以上	約22m	約1430cm
熱田神宮の大楠 ※境内に複数生育	名古屋市	1000年以上	約20m	約770cm
大田の大楠	東海市	1000年	約12m	約950cm
村上社のクスノキ	名古屋市	1000年	約20m	約1080cm
御津神社のクスノキ	豊川市	1000年以上	約18m	約920cm

上記個体と該当樹を比較すると、歴史的な風格や存在感に対して十分とは言えない。しかしクスノキの潜在性から、今後の神社の歴史とともに成長を続け、価値を増していく地域のシンボルとなるような個体へと育成していくことが重要で、そのための景観重要樹木としての指定を推奨する。

地元との連携を図りながら保護育成を行い、よりよい状態で着実に次の世代に守り伝えることが重要だと考える。

1. 概況調査票

No.	調査日	2025年 11月 26日		天候	晴れ		調査者	西垣 直人 中山 和彦 鈴木 奈穂子					
樹種名	クスノキ			科名	クスノキ科								
学名	Cinnamomum camphora			樹木の名称 (愛称)	神明社のクスノキ								
所在地	愛知県みよし市西一色町メ林19-1												
所有者 (管理者)	1.国 2.都道府県 3.市区町村 4.その他公共() 5.社寺 6.個人 7.会社等 8.その他民有() 9.不明												
調査対象木の状況	1.単木 2.並木(延長 m、列) 3.樹群中(面積 m ²) 4.樹林中(面積 ha) 5.生垣(延長 m、高さ m) 6.その他()												
保護制度	1.なし 2.天然記念物 a.国 b.都道府県 c.市区町村 3.保護・保存樹木・樹林 4.名木指定 a.都道府県 b.市区町村 5.その他()												
気象状況 (最寄りのアメダ スデータ)		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
	月別平均気温 (平年値)	3.5	4.6	3.1	8.4	18.1	21.9	25.7	26.7	23.4	17.5	7.1	1.8
	月別降水量 (平年値)	55	68	106	118	141	181	173	120	204	175	87	57
	年平均気温	C			最高気温極値			(年) C	最低気温極値			(年) C	
	年降水量	1800mm			湿量指数 (暖かさの指数)			C・月	寒冷指数 (寒さの指数)			C・月	
	風(特記)												
生育環境 の概況	立地場所	1.公園 2.庭園・屋敷林 3.社寺 4.公共施設 5.ビル周辺 6.街路 7.その他()											
	周囲の状況	1.樹林 a.山林等大面積 b.社叢等小面積 2.芝生 3.耕地 4.建物の間 5.道路 6.河川 7.湖沼 8.その他()											
	潮風の影響	1.なし 2.ややあり 3.あり 4.やや強 5.強											
	日照条件	1.良 2.普通 3.やや不良 4.不良											
	日照不足 の原因	日照不足ではないが、樹冠下または周囲に競合樹が複数生育。											
	土地の傾斜	1.平坦(0°~5°) 2.緩傾(5°~15°) 3.傾斜(15°~30°) 4.急傾(30°~45°) 5.峻(45°以上)											
		傾斜方向											
	土壌	1.自然土 a.堆積土 b.崩積土 c.削剥土 d.その他() 2.盛土客土 3.切土											
	地形	1.山地 2.丘陵地 3.台地 4.低湿地 5.尾根 6.中腹 7.谷 8.窪地 9.扇状地 10.開析低地 11.自然堤防 12.埋立地 13.海岸 14.その他()											
	基岩・母材	-											
	根元及び 周囲の植生	草本	1.密生 2.疎 3.なし										
木本		1.密生 2.疎 3.なし											
周辺樹木 との関係	1.影響なし 2.わずかに影響を受けている 3.影響を受けている 4.かなり影響を受けている 5.深刻な影響を受けている												
根元近くの 工作物等	フェンス(北東2.0m) 社殿(南西7.0m)												

管 理 状 況	1.柵(有・無)、有の場合 a.高さ(cm) b.材質() c.柵内面積(m ²) d.設置年() 2.支柱(有・無) 3.剪定(強・弱・無) 4.施肥(有・無)、有の場合 a.回数() b.量(kg) c.種類() 5.薬剤散布(有・無)、有の場合 a.回数() b.種類() 6.解説板(有・無) 7.避雷針(有・無) 8.定期的な草刈り、掃除(有・無) 9.その他()						
形 状 寸 法 等	樹 高	17.0 m		主幹胸高(1.2m)周囲	362 cm		
	株立樹木の 株数および 胸高周囲	周15cm以上の の本数	本			樹幹胸高断面積合計	cm ²
		周15cm以上の 各々の幹周	cm	cm	cm	cm	cm
	枝 下 高	2.3 m		根元高20cmの周囲	494 cm		
	枝 張 り	東 11.2 m ・ 西 9.6 m ・ 南 10.2 m ・ 北 12.0 m					
樹 齢	推定100~150 年		その根拠	年輪成長5mm/年として換算すると、約115年			
根 元 の 状 態	1.裸地(2.草地・地被類) 3.灌木・低木 4.舗装 a.砂利・砕石(b.アスファルト・コンクリート) c.その他() 5.覆土 厚さ(不明) 土性(砂壤土他) 6.その他()						
樹 木 の 状 態	1.枝枯 a.大枝(多・中・少) b.中枝(多・中・少) c.小枝(多・中・少) 2.空洞(有・無)、有の場合 開口(有・無)、位置(上・中・下) 3.剪定、切断痕 大きさ(10~20cm)、量(全体) 4.主幹の傾き 角度(-)、方向(-) 5.その他()						
過去の治療歴と 内 容							
故 事 ・ い わ れ 等	1.なし 2.信仰対象 a.単木が信仰対象 ア.社・祠あり イ.鳥居あり ウ.しめ縄あり エ.その他() オ.特になし b.樹林等全体が信仰対象 ア.社・祠あり イ.鳥居あり ウ.しめ縄あり エ.その他() 3.禁忌(タブー)(有・無)、有の場合の対象 ア.単木(全体) イ.幹 ウ.枝 エ.実 オ.樹林全体 カ.その他 キ.不明 4.祭事(有・無)(概要:) 5.いわれの内容() 6.不明						
視 認 性	1.遠方からも目立つ(2.近くに行けば見える) 3.直前まで見えない 4.敷地内に入ると良く見える 5.敷地内に入っても良く見えない、その理由()						
特 記 事 項	1.動物生息(有・無)、動物の種類() 2.着生植物(有・無)、着生植物の種類() 3.見学・参観者数(- 人/年) 4.その他()						

2. 地上部の衰退度判定票

評価項目	評価基準					評点
	0	1	2	3	4	
樹勢	旺盛な生育状態を示し被害が全くみられない	幾分影響を受けているが、あまりめだたない	異常が明らかに認められる	生育状態が極めて劣悪である	ほとんど枯死	1
樹形	自然樹形を保っている	若干の乱れはあるが、自然樹形に近い	自然樹形の崩壊がかなり進んでいる	自然樹形がほぼ崩壊し、奇形化している	ほとんど完全に崩壊	1
枝伸張量	正常	幾分少ないが、目立たない	枝は短くなり細い	枝は極度に短小、しょうが状の節間がある	下からの萌芽枝のみわずかに成長	1
梢や上枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い	著しく多い	梢端・主枝がない	1
下枝の先端の枯損	なし	少しあるがあまり目立たない	かなり多い、切断が目立つ	著しく多い、大きな切断がある	ほとんど健全な枝端がない	1
大枝・幹の欠損	なし	少しあるが回復している	かなり目立つ	著しく目立つ、大きく切断されている	大枝・幹の上半分が欠けている	1
枝葉の密度	枝と葉の密度のバランスがとれている	0に比べてやや劣る	やや疎	枯枝が多く葉の発生が少なく著しく疎	ほとんど枝葉がない	1
葉(芽)の大きさ	葉(芽)がすべて十分な大きさ	所々に小さい葉(芽)がある	全体にやや小さい	全体に著しく小さい	わずかな葉(芽)しかなく、それも小さい	1
葉色	全体に濃い緑色を保っている	やや薄い緑色を保っている	黄色、赤褐色の葉が目立つ	大部分が薄い緑色	薄い緑色と黄色、赤褐色のみ	1
樹皮の傷(剥皮・壊死)	傷などほとんどなし	穿孔・傷が少しあるが、あまり目立たない	古傷が残る	傷からの腐朽が著しい	大きな空洞、剥がれがある	1
樹皮の新陳代謝	樹皮は新鮮な色をしていて新陳代謝が活発である	大部分は新鮮だが所々不活発な部分がある	全体に樹皮に活力がない	著しく活力が無く衰弱気味である	樹皮の大部分が壊死	1
胴吹きひこばえ	枝葉量が多く、胴吹きひこばえもない	枝葉量が多いが胴吹きあるいはひこばえもある	枝葉量が少なく胴吹き、ひこばえがある	枝葉量が極めて少なく、胴吹き、ひこばえが多い	枝葉量が極めて少なく、胴吹き、ひこばえも少ない	0
衰退度 = 各項目の評価値の合計 ÷ 評価項目数 (評点を自動計算)						0.9

衰退度判定基準

衰退度区分	I	II	III	IV	V
	0.8未満	0.8~1.6未満	1.6~2.4未満	2.4~3.2未満	3.2以上
	良	やや不良	不良	著しく不良	枯死寸前

3. 樹形写真

東面



スギが優占する社叢林で、競合他樹が多く、各枝が接触している。樹冠ラインが見られないが、枝は四方に大きく広がっている。

西面



ヒノキや低木類が近接しており、枝の成長が抑制されている。

南面



本殿を守り包むように、背景に位置し、他の樹木と林冠を形成している。

北面



樹冠上部で枝葉を広げているが、樹冠下にはケヤキ、クスノキ、スギ、ヒノキなどの高木あり。

4. 被害・病徴部位等の細部写真



葉の一部がクスベニヒラタカスミカメの吸汁被害を受けている。



枝同士がくっつきあって、木目が一体化する「連理木」になりつつある。連理木は縁結びや夫婦円満などの象徴とされ、縁起木として扱われることがある。



南側に過去の寸胴切り剪定痕が複数見られる。



クスノキの樹冠下を含め、周囲一帯に針葉樹、広葉樹が乱立し、枝の接触が多い。



樹間距離が近く、クスノキの樹冠を突出する針葉樹も見られる。

6. 各種被害調査票

部 位		葉	枝	幹・大枝	根元
病 害	程度	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4
	種類				
虫 害	程度	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4
	種類	クスベニヒラタカシミ カメの吸汁被害葉あり。			

部 位		幹辺材腐朽・胴枯れ	幹心材腐朽	根株腐朽
木 材 腐 朽	程度	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4	0・1・2・3・4
	病状 種類	剪定痕からの軽微な腐朽部あり。		

気 象 害	程度	0・1・2・3・4	土 壌 障 害	程度	0・1・2・3・4
	病状 種類			病状 種類	梢端の葉の小型化
大 気 汚 染 害	程度	0・1・2・3・4	そ の 他 の 害	程度	0・1・2・3・4
	病状 種類			病状 種類	競合による枝の伸長抑制

被害程度の区分	なし：0 軽い：1 中程度：2 著しい：3 激害：4
---------	----------------------------------------

注：気象害がある場合は、詳しい気象データを添付する。

7. 総合診断

<p>周辺環境の 影</p>	<p>西側は既存の植栽木、東側一帯は小規模な社叢林としてスギ、ヒノキの人工林が広がり、クスノキを主体で考えると、大きく競合している。 南西側根元すぐのところからコンクリートが打設されており、局所的に養水分の供給が制限されている。 南側は社殿まで約7mと近接し、根の伸長制限がある。社殿の建築基礎よりも深部に根が伸長している可能性も十分にある。</p>
<p>根系・根元 土壌の状 況</p>	<p>周囲全域は盛土その他による人為的な改変が行われている。しかし、地際にルートカラー(根のはじまりの部分)が見られることから、クスノキの根元付近の高さは大きく変わっていない可能性がある。 周囲一帯は土壌硬度試験の結果から、根の伸長発達が制限されるほど固結していることがわかった。</p>
<p>大枝・幹の 状 況</p>	<p>西から北西にかけてアラカシ、ヒノキ、ツクバネガシなどの高木が近接しており、明らかに太枝の発達が制限されている。特に西側の枝の発達に影響が大きく、枝の広がり偏っている。 特に南側において、10～20年前と思われる剪定痕が確認できる。寸胴切りされた様子で、そこから複数の枝が発生、発達した様子が見られる。 幹や太枝に目立った腐朽等の傷害はない。</p>
<p>樹冠・枝葉の 状 況</p>	<p>周囲の樹木と大きく枝が接触している。ただし、このクスノキが優勢となっているため、現在のところ樹勢には大きく影響していない。上部梢端に若干、葉が小さいと感じるところがあるが、植栽基盤の影響によるものの可能性が高い。 北東の一部に、樹冠ラインを突出するスギ、同じく西北西にヒノキあり。</p>
<p>そ の 他</p>	<p>景観木として捉えた場合、周囲の樹木と近接しているため、著しく視認性が悪い。大きな存在感で、本殿を守り包み込むような印象とするためには、周囲の樹木の競合緩和を検討したほうがよい。</p>
<p>考 察</p>	<p>クスノキの根元の高さは変わっていないが、周囲は盛土の形跡がある。土壌断面調査等の掘削状況から、深さ10～15cm程度のところで、やや赤みのある粘土質を含む土の層に変わることがわかった。(南西側7.6m)そこが元土の高さと思われ、主たる根がその土の内部に出現する傾向にあることから、根の発達範囲は元土内に集中している可能性がある。現在のところ、盛土の影響を受けているとは考えにくい。ただし、硬度試験からも断面調査からも、元土部の固結が確認され、根の伸長発達が非常に困難な植栽基盤だと考えられる。</p>
<p>総 合 判 定</p>	<p>樹勢は比較的保たれており、安定した生育状況が続いている。葉に見られる虫害も、クスノキを枯損させるほどの種ではなく、定期的な観察を続ける程度でよい。枯れ枝の多くは生理的なもので、樹勢等へ影響しているものではない。 周囲の樹木との競合が著しく、今後もこの状況が続けば、枝葉の伸長制限や樹形・バランスの乱れ、枯損枝の発生、美観面・衛生面への影響は避けられない。 現在、樹勢等への影響は少ないが、土壌の固結が問題視される。根の健全な生育が困難なほどで、今後樹勢の動向を注視する必要がある。</p>

8. 今後の保全対策概要

周 辺 環 境 の 備 整	南西側に打設されたコンクリートは、少なからず根の生育に影響があるため、可能であれば撤去したほうがよい。
土 壌 改 良 と 発 根 促 進	現在の生育状況からは必要ないと考える。ただし記述の通り、土壌の固結による通気性や透水性の問題は、長期的な生育に影響を与える可能性がある。ゆえに、樹勢等の観察を続け、必要に応じて土壌改良の検討を進めていけるとよい。
樹 幹 部 の 置 処	必要なし。
剪 定	各所、枯れ枝剪定は必要である。参拝者が近づきにくい場所ではあるが、落枝事故の可能性を無視できないため、早めの対処が望ましい。
支 柱 等 の 設 置	必要なし。
柵 の 設 置	〔範囲〕 必要なし。 ----- 〔方法〕
そ の 他	周囲の競合木は生育上の問題となるだけでなく、美観面や衛生面への影響も大きい。可能な限り撤去が望ましい。特に樹冠下にある高木類は、光合成阻害だけでなく、枝葉の接触による物理的損傷、根系競合、視認性の悪化など、様々な影響を及ぼすため、優先的に撤去を進めていけるとよい。
特 記 事 項	
保 全 計 画 (5 年 間)	〔緊急項目〕 枯れ枝の切除による落枝事故防止。 ----- 〔中・長期的項目〕 樹冠下の競合木から順に撤去を進めていき、数年かけてこのクスノキの周囲の高木を除去していけるとよい。 ----- 〔その他必要な項目〕

図は別に添付する